

令和3年2月8日～2月12日  
東京都立八王子西特別支援学校  
令和2年度 全国公開研究会

# 令和2年度 研究活動について

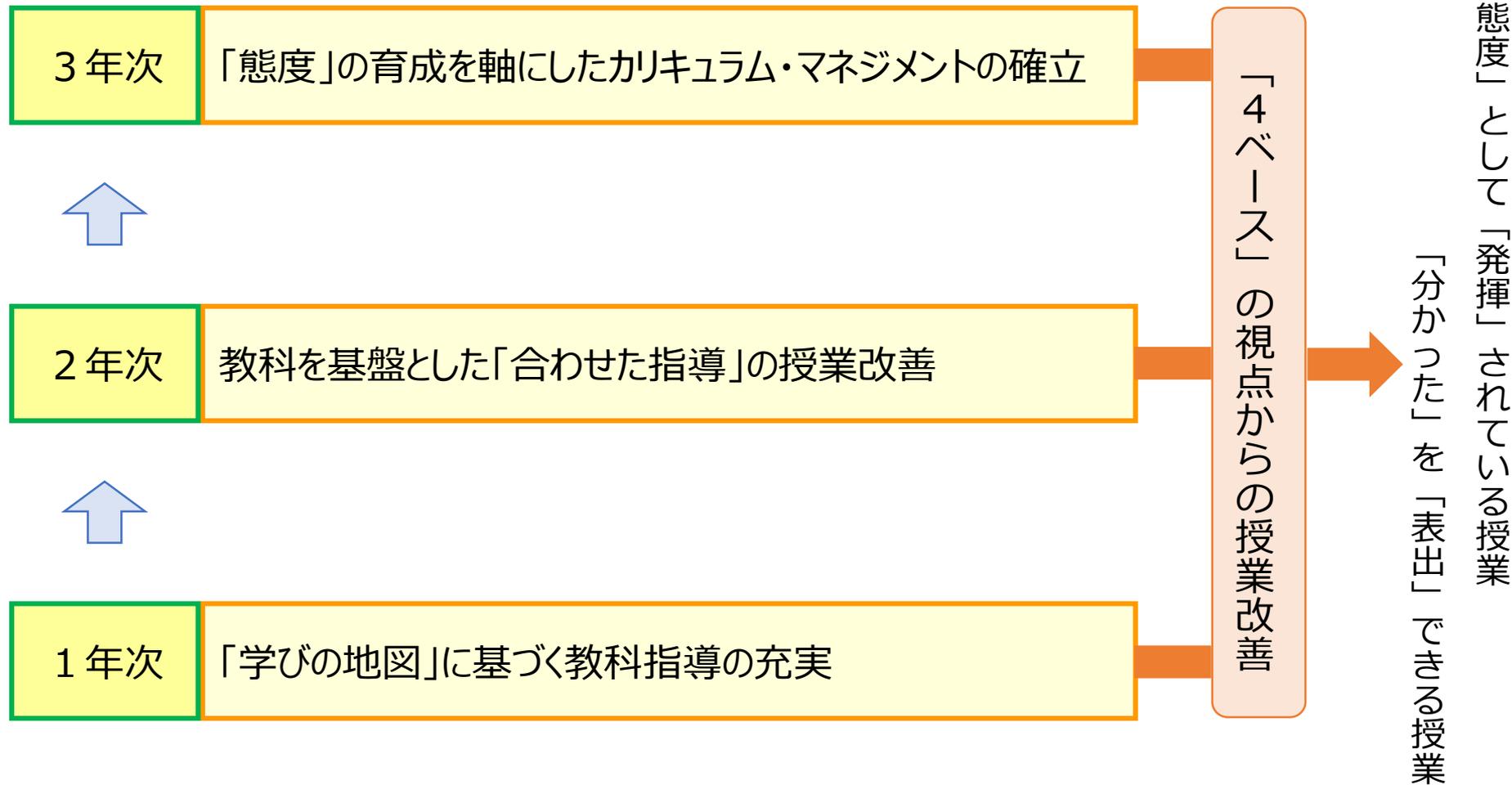
研究主題（3年計画）

**『「態度」の育成を軸にした教育課程の創造』**

1年次

**『「学びの地図」に基づく教科指導の充実』**

## 『「態度」の育成を軸にした教育課程の創造』



# 「学びの地図」としての学習指導要領

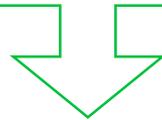
## 改訂の基本方針

- ◎ 将来の予測が難しい社会の中でも、伝統や文化に立脚した広い視野を持ち、志高く未来を創り出していくために必要な資質・能力を子供たち一人一人に確実に育む学校教育を実現
- ◎ 「何を学ぶか」という指導内容の見直しに加えて、「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」の視点から改善

社会において自立的に生きるために必要な「生きる力」を育むという理念のさらなる具体化

資質・能力の  
三つの柱

- ① 生きて働く「知識・技能」の習得
- ② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
- ③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養



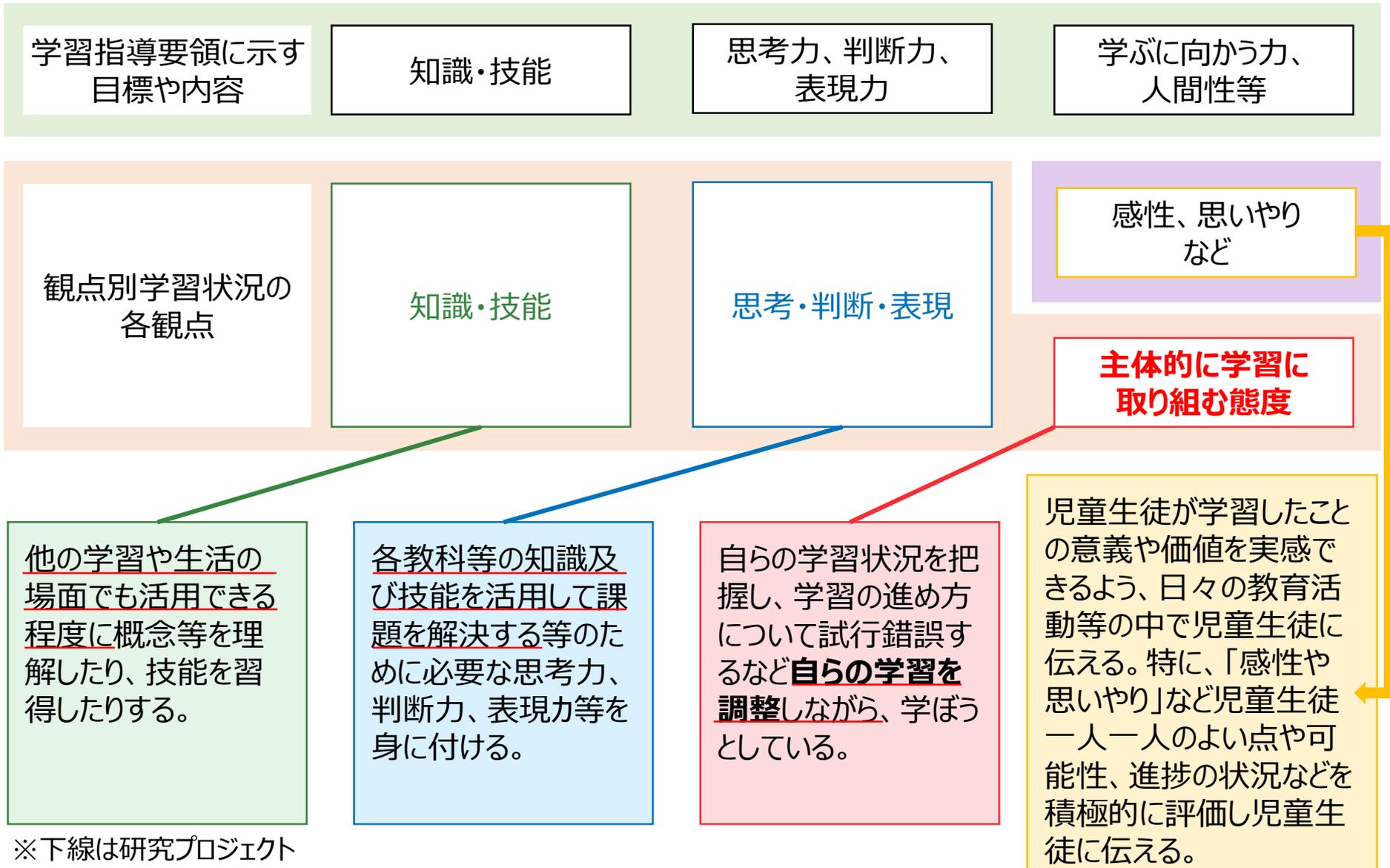
## 学習指導要領

学校教育を通じて子供たちに身に付けさせたい資質・能力や学ぶべき内容、学び方の見通しを示す「**学びの地図**」

教員、児童・生徒が学びの意義を自覚する手掛かりとしたり、家庭、地域、企業等においても幅広く活用したりできるようにすることが目指されている。

# 「態度」とは…？

『学習評価の在り方ハンドブック』より



# 「態度」とは…？

6月22日の研修（東京学芸大学名誉教授 菅野敦先生）より

「発揮している」という「態度」を各教科の中で実現することは難しいので、「合わせた指導」の中で、実際的な活動場面を設定して、実際に活動する児童生徒の姿から「態度」を評価することになります。

「合わせた指導」

各教科

態度を育てる。

「態度」

態度  
「いつも発揮している」

思考力や想像力、表現力を養う。

能力

思考・判断・表現  
「知識・技能」を  
発揮する

〇〇を理解し、〇〇の技能を身に付ける。

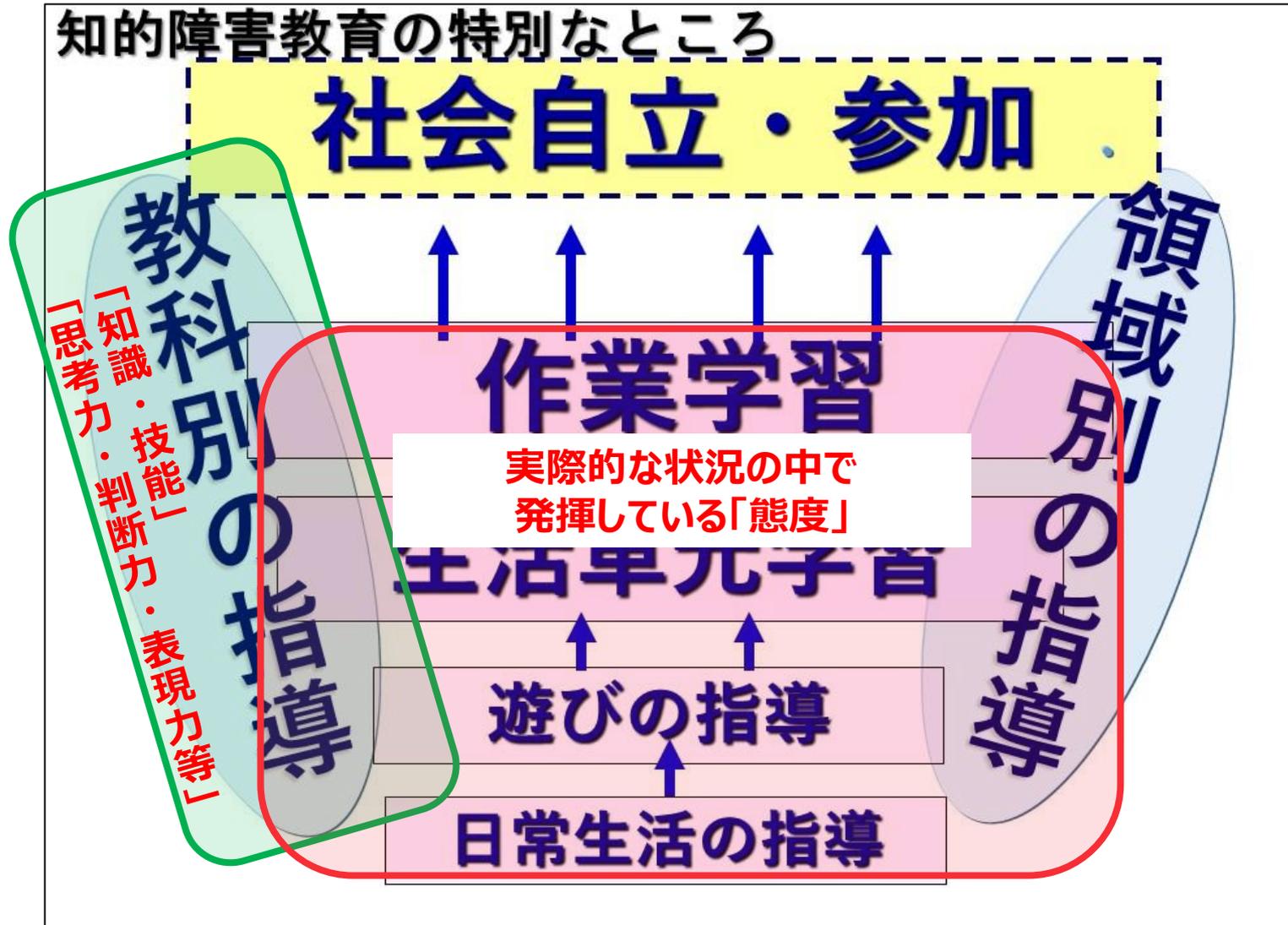
知識・技能

知識  
「分かる」

技能  
「できる」

# 「態度」とは…？

6月22日の研修（東京学芸大学名誉教授 菅野敦先生）より



# 「態度」とは…？

## 「態度」

他の学習や生活場面でも活用できる程度に習得した**知識・技能**を**活用**して、自らの学習を調整しながら、課題解決にあたっている**実践的で持続的な姿・行動**

（学習、仕事、生活、社会に向かう）「態度」の具体的な内容の体系化は、各学校や各業種で始まったばかりです。

「態度」として発揮されている児童・生徒の姿が  
どういう姿なのかという児童・生徒像を蓄積していく必要があり、  
本研究活動をとおして、「態度」を発揮している児童・生徒の姿を明らかにしていくこともできるのでは。

# 学校経営計画概要と3年計画の研究

## 1年次

教育理念	ステップ1 わかって動く				ステップ2 考えて動く				ステップ3 責任を果たす				
教育課程	小学部				中学部				高等部				
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2・高3		
身に付けさせたい「態度」	感受性				自律性				積極性 責任性 柔軟性 協調・協力				
各教科等を合わせた指導「態度」を育成する	日常生活の指導 生活単元学習 身近な生活における活動に繰り返し取り組む				移行準備期間 ステップによる学部間の接続 役割のある活動で活躍する				移行準備期間 ステップによる学部間の接続 作業学習 セル作業に取組み一人で完成させる ライン作業で協力して完成させる セル作業に取組み一人より高度な完成を目指す				
環境が変わっても身に付いた態度を維持できるように各学部における指導のアプローチを変えません													
各教科等 知識・技能を身に付ける	国語・算数、体育、音楽、				教科ごとの授業研究 学、保健体育、音楽、美術、 理、総合的な学習の時間				国語、数学、保健体育、音楽、美術、職業、家庭、 理科、社会、英語、総合的な探究の時間、情報				
社会性の学習 自立活動 「態度」の基礎・土台を身に付ける	感受性のスキル コミュニケーションブックを使い、絵カードを組み合わせて伝えたいことを伝える練習をします。				自律性のスキル 活動への見通しをもつことで、集中して課題に取り組めるようになります。				自律性以降のスキル (積極性・責任性・柔軟性・協働できる力など) スケジュール管理や備忘のために自分で手帳を活用します。				
「わかる授業の4ベース」の理解・習得・活用													
コミュニケーション・ブックやスケジュール帳の活用、対人関係に関するスキルの習得													

「態度の6領域」(東京学芸大学 菅野 敦 名誉教授)より引用・改変

# 学校経営計画概要と3年計画の研究

## 2年次

教育理念	ステップ1 わかって動く				ステップ2 考えて動く			ステップ3 責任を果たす			
教育課程	小学部				中学部			高等部			
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2・高3
身に付けさせたい「態度」	感受性				自律性			積極性 責任性 柔軟性 協調・協力			

日常生活の指導

生活単元学習

作業学習

各教科等を合わせた指導「態度」を育成する

各教科等 知識・技能を身に付ける

各教科等を合わせた指導「態度」を育成する

各教科等 知識・技能を身に付ける

### 各教科+「合わせた指導」の授業研究

環境が変わっても身に付いた態度を維持できるように各学部における指導のアプローチを変えません

社会性の学習 自立活動 「態度」の基礎・土台を身に付ける

感受性のスキル

自律性のスキル

自律性以降のスキル (積極性・責任性・柔軟性・協働できる力など)

「わかる授業の4ベース」の理解・習得・活用

コミュニケーション・ブックやスケジュール帳の活用、対人関係に関するスキルの習得

「態度の6領域」(東京学芸大学 菅野 敦 名誉教授)より引用・改変

# 学校経営計画概要と3年計画の研究

## 3年次

教育理念	ステップ1 わかって動く				ステップ2 考えて動く			ステップ3 責任を果たす				
教育課程	小学部 小1   小2   小3   小4				小学部 小5   小6 <small>移行準備期間</small>		中学部 中1   中2 <small>他校からの新入生への態度の再構築</small>		中学部 中3 <small>移行準備期間</small>		高等部 高1   高2・高3 <small>他校からの新入生への態度の再構築</small> I・II類型   III類型 <small>卒業後の生活を見据えた類型化</small>	
身に付けさせたい「態度」	感受性				ステップによる学部間の接続		自律性		ステップによる学部間の接続		積極性   責任性   柔軟性   協調・協力	
各教科等を合わせた指導「態度」を育成する	日常生活の指導 生活単元学習 身近な生活における活動に繰り返す				作業学習 最高学年では、次の学部と一緒に学習する機会を設け、スムーズな移行を図ります				高等部になると一人一人に合った就労を目指して、校外での実習にも取り組みます			
<b>各教科+「合わせた指導」の授業研究 八西式カリキュラムマネジメントシステム</b>												
各教科等 知識・技能を身に付ける	国語・算数、体育、音楽、図画工作				国語・数学、保健体育、音楽、美術、職業・家庭、総合的な学習の時間				国語、数学、保健体育、音楽、美術、職業、家庭、理科、社会、英語、総合的な探究の時間、情報			
社会性の学習 自立活動 「態度」の基礎・土台を身に付ける	<b>感受性のスキル</b> コミュニケーションブックを使い、絵カードを組み合わせて伝えたいことを伝える練習をします。				<b>自律性のスキル</b> 活動への見通しをもつことで、集中して課題に取り組めるようにします。				<b>自律性以降のスキル</b> (積極性・責任性・柔軟性・協働できる力など) スケジュール管理や備忘のために自分で手帳を活用します。			
<b>「わかる授業の4ベース」の理解・習得・活用</b> コミュニケーション・ブックやスケジュール帳の活用、対人関係に関するスキルの習得												

# 今年度の研究のねらい

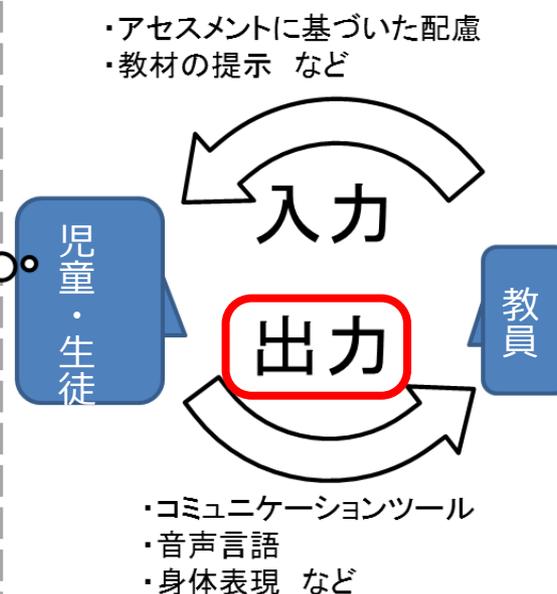
各教科の授業で身に付けた「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」は、児童生徒の姿をとおして、評価するしかない。

各教科の目標を達成したといえる表出を引き出すために、「児童生徒の頭の中の思考・判断を、どのように表出させるか」に焦点を当てる。

## 各教科の目標を達成させる思考



考えさせるには...  
・発問はどうあるべきか  
・教材はどうするか など

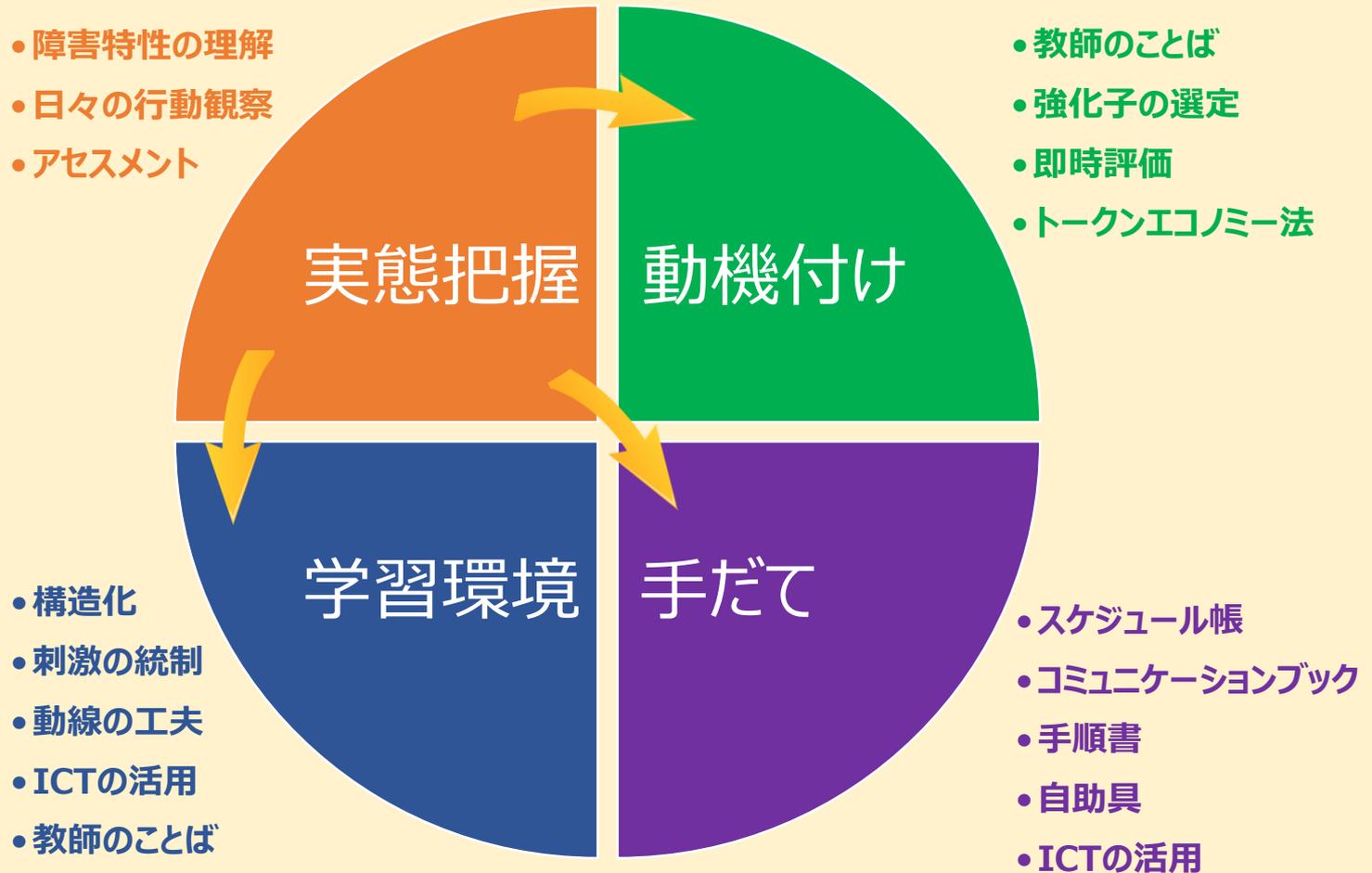


## 表出

- ・音声言語
- ・文字
- ・カード等の選択
- ・身振り、ジェスチャー
- ・身体表現
- ・サイン
- ・クレーン動作 など

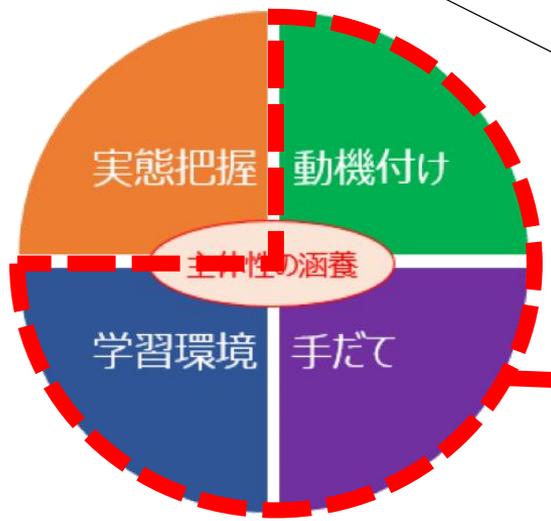
**自分から表出するための配慮が必要となる。**

## 「分かる授業の4ベース」



## “1年目は、教科指導の充実を図りたい”

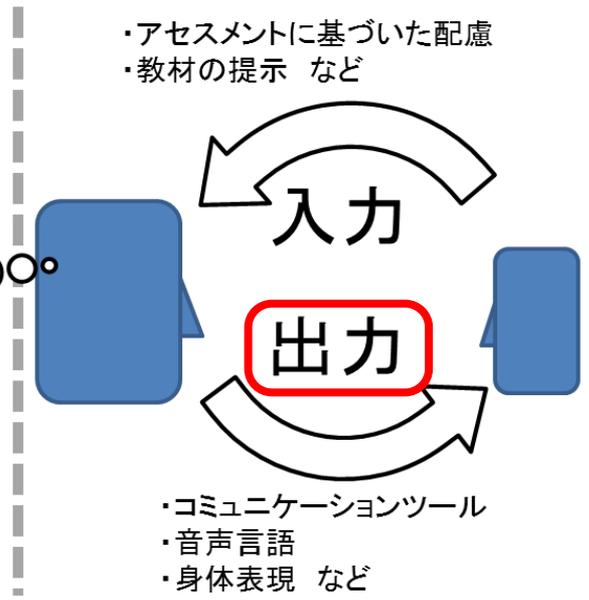
### 教科の要素



各教科の目標を達成させる思考



考えさせるには...  
・発問はどうあるべきか  
・教材はどうするか など



「自立活動」の要素（配慮）

# 今年度の研究のねらい

各教科の授業の中で

「児童生徒の思考・判断の表出をどのように引き出すか」

頭の中で考えたこと

表出

【表出手段】

- ・音声言語
- ・文字
- ・カード等の選択
- ・身振り、ジェスチャー
- ・身体表現
- ・サイン
- ・クレーン動作
- など

自分から表出するための配慮が必要となる。

思考・判断

頭の中で「考えた」こと

表出

「思考・判断」を表す具体的な行動

# 今年度の研究のねらい

「思考・判断」	頭の中で「 <b>考えた</b> 」こと
「表現」	「思考・判断」を表す具体的な <b>行動</b>

思考・判断の表出 = 「**考えた**」といえる**行動**

各教科の授業で「考えた」といえる行動を  
**どのように**授業で**引き出す**かを明らかにする。

# 研究組織体制

## 研究推進444プロジェクト

・研究や研修の方向性

### 研究研修部門

教員の授業力維持・向上

### 教育課程の開発（444）部門

態度の6領域を踏まえた  
カリキュラムの確立

#### 全校研修会

授業研究に関する研修会

- ・7月20日（月）
- ・講師 齊藤宇開先生

#### 全員研究授業

一人一回以上の研究授業

- ・期間 9月～2月
- ・感染予防ガイドランを踏まえた内容で実施

#### 教科グループ研究

教科ごとの授業研究

- ・期間 9月～1月

#### 教材教具開発

年間一人2点を展示

- ・教材教具発表会
- ・1回目 8月6日
- ・2回目 2月12日

#### 国語1

- ・推進委員
- ・授業者
- ・撮影、記録…

担当主幹A

#### 国語2

- ・推進委員
- ・授業者
- ・撮影、記録…

担当主幹B

...

## 1 研究活動や学校課題のテーマに沿った全校研修会

- 研究テーマに即した講師の講義などの研修による教職員の専門性の向上

## 2 全員研究授業

- 全員による一人1回以上の研究授業による授業力の維持・向上

## 3 グループ研究

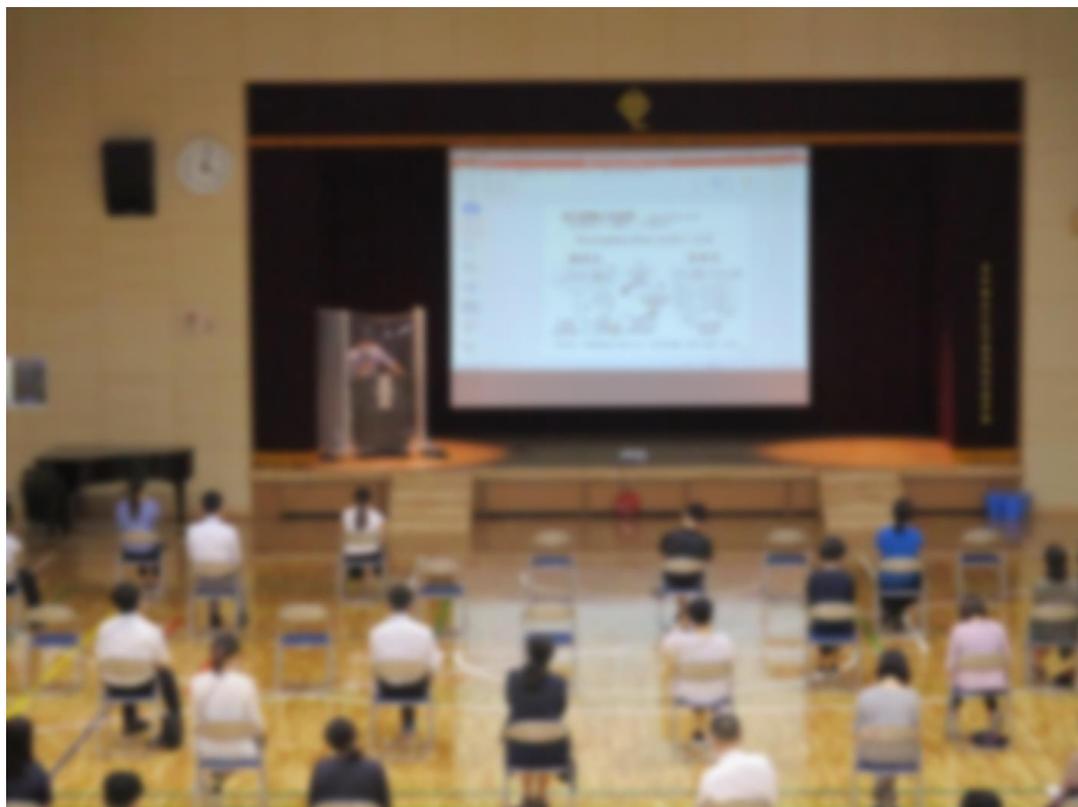
- 教科別の小グループによるグループ研究協議による教科学習の充実

## 4 教材教具発表会

- 年間2回の教材展示発表
- 8月6日（木）、2月12日（金）

# 1 全校研究会

- 研究活動や学校課題のテーマに沿った全校研修会
  - 研究テーマに即した講師の講義などの研修による教職員の専門性の向上
  - 6月22日 菅野敦先生による研修会
  - 7月20日 齊藤宇開先生による研修会



## 2 全員研究授業について

- 授業をもっている先生は年 1 回以上、研究授業を実施。
- 期間は令和 2 年 9 月～令和 3 年 2 月まで。

### 研究授業で準備するものは以下の 3 点

- ①「学習指導案」
- ②「児童・生徒の実態表」
- ③「研究授業オーダーシート」

# ① 学習指導案

〇〇科学習指導案

日時：令和 年 月 日 〇 〇：〇〇～〇：〇〇  
対象：〇学部 第〇学年〇グループ 〇名  
授業者：  
場所：

1 単元名  
「 〇〇 〇〇 」

2 単元目標  
単元目標は「 〇〇 〇〇 」である。  
その根拠として、特別支援学校学習指導要領〇〇科（思考力・判断力・表現力等）の観点には、「B 書くこと」1段階の内容として、「ア、見聞したことや経験したことの中から、伝えたい事柄を選び、書く内容を大まかにまとめること。」とある。  
\*網掛けの部分は、学習指導要領の各教科より変更する。

3 本時の目標  
・単元目標より具体的な本時の目標 ※1項目のみ記入してください。

4 本時の展開（全〇時間中の第〇時間目）

時間	学習活動	〇「4ベース」に基づく指導の工夫

対象児の「考えた」といえる行動（思考・判断の表出）を引き出す学習活動を太枠で囲む。

取り上げた場面（太枠）での「考えた」といえる行動（思考・判断の表出）	※「～できること」という文末になるように記述。
その行動をどのように導くか。（具体的な手段を簡潔書き）	

5 研究授業参観者へのオーダー ※「オーダー」…授業者がアドバイスをもらいたいところ

・授業の根拠となる学習指導要領の指導事項を記述。

・目標はシンプルに1項目のみ記述。

・「4ベース」にも続く指導の工夫を抽出して記述。

・「考えた」といえる行動を取り上げた場面を太枠で囲む。

・「考えた」といえる行動を、「～できる」という文末で、具体的に記述。

・参観者にアドバイスを受けたことを記述。

## ② 児童・生徒の実態表

都立八王子西特別支援学校 令和2年度 児童・生徒の実態表			
授業者	八王子 裕子	所属研究グループ	対象児童・生徒
日時	6月29日	場所	1年1組
対象児童・生徒の実態			
コミュニケーションの手段			
<input type="checkbox"/> グレーン動 <input type="checkbox"/> 身振りサイン <input type="checkbox"/> 音声 <input type="checkbox"/> 絵カード・写真カード <input type="checkbox"/> 文字 <input type="checkbox"/> 音声言語 <input type="checkbox"/> その他( )			
言語機能アセスメント			
項目		言語機能アセスメント	
①構音の明瞭さ		5 4 3 2 1 0	
②流暢性		①構音の明瞭さ ②流暢性 ③自発語の長さ ④自発語の内容 ⑤発語の運用 ⑥復唱の長さ ⑦聴覚的記憶力 ⑧理解水準	
③自発語の長さ			
④自発語の内容			
⑤発語の運用			
⑥復唱の長さ			
⑦聴覚的記憶力			
⑧理解水準			
J☆sKep			
項目		J☆sKep	
①学習姿勢		6 5 4 3 2 1 0	
②指示理解		①学習姿勢 ②指示理解 ③セルフマネージメント ④強化システム ⑤表出性コミュニケーション ⑥模倣 ⑦注視物の選択	
③セルフマネージメント			
④強化システム			
⑤表出性コミュニケーション			
⑥模倣			
⑦注視物の選択			
平均			
アセスメントから導き出される対象児童・生徒の状態像を基にした配慮や課題			

### 「児童・生徒の実態表」



「インタビュー資料」や外部専門員のカンファレンスなどを基に作成。

### ・言語機能アセスメント

※『特別支援教育に活かせる発達障害のアセスメントとケーススタディ 発達神経心理学的な理解と対応：言語機能編/坂爪一幸』早稲田教育叢書

### ・J☆sKep

※『自閉症教育実践マスターブック -キーポイントが未来をひらく-』ジヤース教育新社

・アセスメントから導き出される児童生徒の状態像を基にした配慮や課題

◎全員研究授業、グループ研究の研究授業で、学習指導案に必ず添付する。

# ③ 研究授業オーダーシート

研究授業オーダーシート	授業者
〇月〇日(〇) 教科 〇〇	
授業全般について ( 実態把握、本時、目標、など )	
「考えた」といえる行動(思考・判断したこと)の表出について	
その他 ( 4ベース:実態把握、学習環境、手だて、動機付け など)	
授業者のオーダーについて(学習指導案の5より)	
参観者	

- 少ない時間でも、授業へのコメントができるように、授業者のオーダーと連動した「オーダーシート」を、学習指導案とともに配布。

### 3 教科別のグループ研究

#### ➤ 教科別の研究グループ（23グループ）

◆担当授業や希望、所持免許状などにより、3～10名で構成。

国語（1～8G）

体育・保健体育（1～2G）

音楽

職業

理科

算数・数学（1～6G）

図工・美術

英語

家庭

社会

- 国語、算数（数学）は、学部ごとに編成。
- 図工・美術と音楽は小中高縦割り。
- 家庭は中高縦割り。
- 英語、職業、理科、社会は高等部のみで編成。

# 3 教科別のグループ研究

## 研究組織体制内での役割

- **プロジェクトチームで研究スタイルの構築**

- 1年間の研究活動のスケジュール
- 協議会の進め方の提示

研究のデザインを  
統一する

- **グループ研究推進委員の役割**

- グループ研究の進行管理
- グループ研究の協議会の進行
- 全校研究会等での発表

グループごとに  
自律した運営

- **グループメンバーで行うこと**

- 研究授業対象者の選出
- 協議会シート等を活用した授業評価
- 指導方法や教材のアイデアを協議

全員参加での  
研究活動

# 教科別のグループ研究の流れ

各教科の授業の中で、  
児童・生徒の「考えた」といえる行動をどのように引き出すかを協議

**事前協議** ( 授業計画を協議 )

**研究授業** ( タブレット端末で授業の様子を録画 )

**授業参観** ( 録画した授業を参観 )

**事後協議**

( 「考えた」といえる行動を引き出せたか、手だては有効だったかを協議 )

「考えた」といえる行動を引き出せた

「考えた」といえる行動を引き出せなかった

**検証授業**

**改善授業**

**成果の発表** ( グループ研究を総括 )

※助言者 ( 齊藤宇開先生 ) による講評も成果物資料に含める。

# 教科別のグループ研究の流れ

月	研究活動
7月	
8月	
9月	グループ研究開始
10月	
11月	
12月	グループ研終了
1月	協議会シート完成・発表資料作成
2月	公開研究会



# 「協議会シート」を活用して協議を焦点化

## 【協議会シート① 事前協議】

協議会シート① 事前協議

事前協議前に入力し、1回目の研究協議（事前協議）で配布

グループ名		
単元について	単元の目標	
	本時の目標	
	指導日	
	時間	
	時期	
アセスメント	対象児童・生徒	○学部○年生
	言語機能アセスメント	
	J★sKep	
アセスメントから導き出される配慮		
本時の展開	学習活動	指導の工夫
	対象児の「考えた」といえる行動(思考・判断の表出)を引き出す学習活動を太枠で囲む	
本実践の思考	取り上げた場面での「考えた」といえる行動(思考・判断の表出)	※「できること」という文表現型になるように記載
	その行動をどのように導くか。(留意書き)	
		30

- ・授業者が入力
- ・学習指導案から転記

- ・実態表から転記

- ・学習指導案から転記
- ・「考えた」といえる行動を取り上げた場面を太枠で囲む。

- ・学習指導案から転記

- ・協議会の時間配分



# 「協議会シート」を活用して協議を焦点化

## 【協議会シート③ 事後協議】

協議会シート③ 事後協議		
事後協議後に協議内容を入力		
本実施の目的	取り上げた議題での「考えた」といえる行動 (指導・指導の視点)	0
	※「できること」という文末表現になるように記述。	
	その行動をどのように進めたいか (指導案等)	0
「考えた」といえる行動を取り上げた議題の授業観察 (ビデオでの参観)		時間 10
研究協議会での意見	評価 ひてま 文で書い たから ではない	その理由
対象児童生徒		
その他の児童生徒		
改善授業で採用するアイデア		5 - 10
もしくは 他の児童生徒にも活用できるアイデア		

・協議会シート①から自動入力

→ 協議会の時間配分の目安を記載

### ビデオ参観を通じた協議

- (1) 「考えた」といえる行動の様子を共有する。
- (2) 「考えた」といえる行動に関する課題などを協議する。

・対象児以外の児童生徒の思考の表出について、改善のアイデアがあれば記述

・協議の結果、改善授業に採用するアイデアを記述



# 「協議会シート」を活用して協議を焦点化

## 「協議会シート」の工夫

### 研究のパッケージ化

◎ 協議のゴールを示すことで、何を話し合えばよいか分かりやすい。

円滑な進行

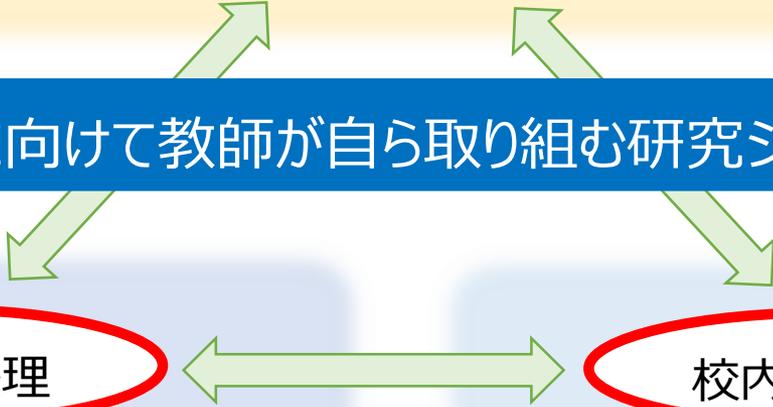
専門性向上に向けて教師が自ら取り組む研究システム

論点の整理

◎ 「書き込み式」にしたことで、何を書けばよいか分かりやすい。

校内の一貫性

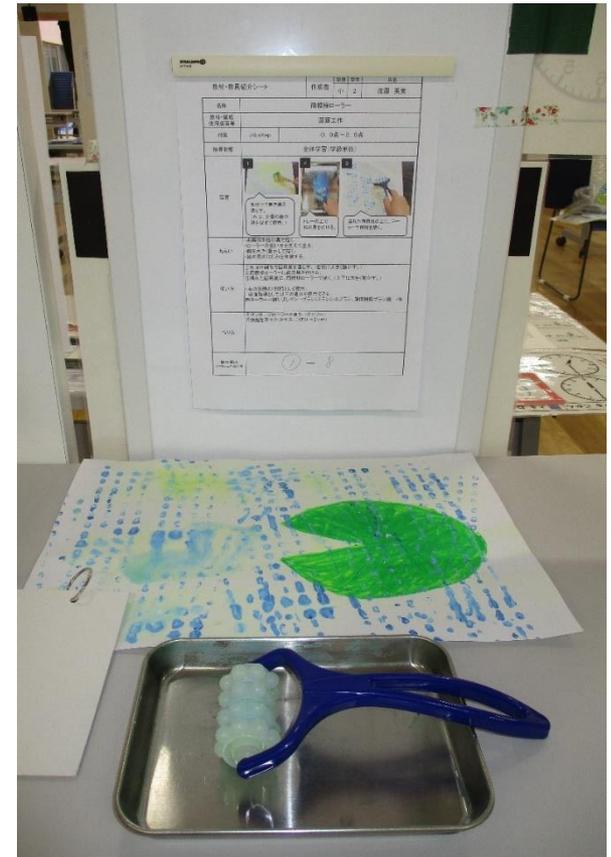
◎ 協議の筋道を示すことで、どのグループも筋を外さない。



# 4 教材教具発表会

第1回 令和2年8月6日(木)

第2回 令和3年2月12日(金)



# 教科指導の充実のために

成果として

「主体的・対話的で深い学び」

自発的に取り組むための環境設定と動機付け

## 児童・生徒が分かる手だての徹底

授業の流れを一定にする。  
動線を単純化する。  
考える手順を示す。  
答えを書く場所などを明確にする。  
解答の方法をルール化する。 など



## 動機付けを喚起する仕組み

即時評価  
トークンエコノミー  
ビデオフィードバック等による自己評価  
内発的動機づけへの移行 など

児童・生徒が自発的に取り組みたいと思う授業

# 教科指導の充実のために

成果として

「主体的・対話的で深い学び」

## コミュニケーション手段の確保と言語技術の向上

### コミュニケーション手段と活用機会の確保

- ・ コミュニケーションブックを使用して要求を伝える。
- ・ コミュニケーションブックを使用して選択した解答を伝える。
- ・ 文章カードを並べて構文する など

### 言語技術の習得と活用

- ・ 一人称を主語にした文章を校正したり意見や感想を発表したりする。
- ・ 主張→理由→まとめの文章構成で整った文で説明したり書いたりする。
- ・ 5W1Hを意識した作文や発表をする。
- ・ 説明の原則に沿って場面を分析して相手に伝える。

児童・生徒が必ず「ことば」を使って思考する授業

# 教科指導の充実のために

成果として

「主体的・対話的で深い学び」

表現や思考の「型」の習得と他の場面での応用

## 表現や思考の「型」の習得と応用

- ・ 視覚的ツールで操作して、要求、報告、説明等の「型」を習得する。
- ・ 視覚的ツールをリマインダーとして活用しながら、「型」を習得する。
- ・ 要求、報告、説明等の「型」を繰り返し活用する中で習得する。
- ・ 相手が変わっても、習得した「型」を活用して思考・判断・表現する。
- ・ 課題が変わっても、習得した「型」を活用して思考・判断・表現する。
- ・ 場面が変わっても、習得した「型」を活用して思考・判断・表現する。

自分で分かって動いて「ことば」という思考の手段を活用して  
様々な場面で思考・判断・表現する

# 教科指導の充実のために

## 知的障害特別支援学校における教科指導の充実

### 自立活動の分野の充実と定着

- ・ 知的障害特別支援学校の教科指導には、土台としての自立活動の充実が必要である。

### 教科指導の充実

- ・ 本校の「4つのベース」としてまとめた自立活動の要素を教科指導に取り入れて授業をデザインする。
- ・ 自立活動の充実と定着を経て、教科指導の充実を図る。

自立活動を充実させたからこそ取り組める教科指導の充実

各教科の指導が充実してこそ「態度」の育成を図ることができる。